

JIS規格とは

今回の安全基準は、JIS規格によって定められました。JIS規格は、消費者が安心して製品を利用できるようにするための、国内の統一的な基準のことです。

JIS規格には、それが何の規格かを識別するための番号が付けられています。今回の規格は「JIS L 4129」。「よいふく」で覚えてください。

ここがポイント!

JIS規格は任意の規格なのでメーカーへの強制力はなく、規格外の商品も販売される可能性があります。

大切なことは、子ども服を買うとき、着せるときに「この服は安全か?」の意識をもつことです。

具体的には

●表示を確認しましょう!

メーカーなどが規格に合っていることを示す表示などを行うことが想定されますので、参考にしてください。

例:「JIS L4129適合」、「ひもの安全性に配慮した製品」等

●引っかかりやすいひもなどが無い服を選ぶ!

●公園などで遊ぶ時は、ひもやフードのある服を着せない!

●家にある子ども服の点検!

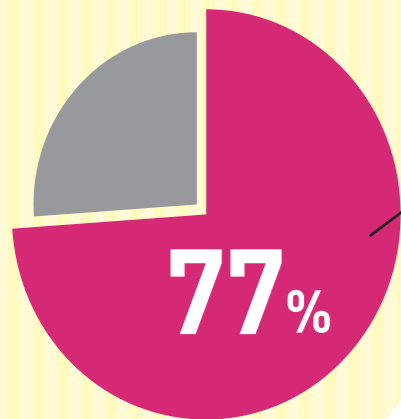
どのようなひもが危険かを考えて、首まわりやウエストのひもは抜いたり縫い付けるなど工夫しましょう。

サイズにも注意して、体に合ったものを着せることも大切です。

その服、
「カワイイ」
だけで
選んでませんか?



近年、子ども服のひもが原因で起きる事故に対して、心配の声が増えています。
経済産業省ではメーカーや消費者と協力して
子ども服のひもの安全基準を定めたJIS規格を作りました。



「子ども服が原因でヒヤリとした経験がある」

と答えた親の割合(東京都調べ)

このような危険があります!!

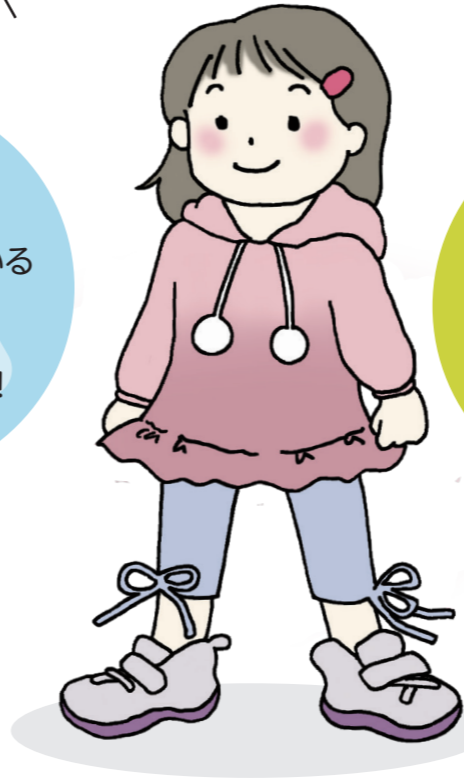
子ども服と子どもを取り巻く環境や、様々な製品との組み合わせにより事故につながる場合があります。ひも・フードの「子ども同士でふざけて引っ張り合う危険」が多いことも報告されています。



首まわりのひも

- ▶ 滑り台のわくに引っかかった。
- ▶ プランコの鎖に引っかかり降りる時に転倒した。

子ども服を選ぶときはこのひもにご注意を!



ひも
ひもの先に付いているポンポンや、飾りボタンなどは引っかかりやすい!

フード
引っ張られたり引っかかる危険性があるので注意が必要!



フード(JIS対象外)

- ▶ 家のドアノブに引っかかり、首がしまった。
- ▶ 引っ張り合って転倒した。



ズボンのすそのひも

- ▶ 電車のドアにはさまれた。
- ▶ エスカレーターにはさまり転倒した。



ウエストや腰回りのひも

- ▶ 上着のひもが自転車のタイヤに巻き込まれた。
- ▶ 長いひもを自分で踏んだ。
- ▶ スクールバスのドアにはさまれた。

「カワイイ」
だけで選ぶと、
思わぬ事故につながる
可能性があります!

今回定められたJIS規格による安全基準の例

頭や首回りから垂れ下がっているひもはつけられません
※フードそのものはJIS規格の対象外です

背中から出るひもはつけられません

股より下に裾がある場合、垂れ下がったひもをつけることはできません
(上着、ズボンの裾など)

このほか、
年齢やひもの場所に応じて
決められています